

# 中門跡から平安期の参道

## 高野山詣で流行し整備か



金剛峯寺中門跡の発掘調査で見つかった参道跡（人がいる部分）  
＝6日午後、高野町

高野町の金剛峯寺に「時代（十一世紀後半）ある中門跡付近で平安の参道とみられる道路」跡が見つかり、高野町教育委員会と元興寺文

化財研究所（奈良市）が六日発表した。金剛峯寺で平安時代の参道跡が見つかるのは初めて。

参道は金堂に向かって造られており、幅約三・五メートル。町教委などによると、道はかまぼこ状に盛り上がり、固く踏みしめられていた。両側には側溝の跡もあった。

平安時代に高野山詣では白河上皇ら皇族や

貴族の間で流行し、町教委は「参道は高野山詣でが盛んになり整備されたのでは」としている。

寺の記録などによると、中門は弘法大師の

弟子が九世紀初頭に別の場所に建立したとき、十二世紀半ばごろ、参道の上に土を盛って、現在の地に中門が移されたという。

中門は江戸時代の一

八二〇年までに六回再建されたが、一八四三年に焼失、再建事業のため発掘が行われていた。

後一時から。現地説明会は八日午